

マリンレジャー安全レポート

第25号(平成19年8月)

第七管区海上保安本部
マリンレジャー安全推進室
TEL 093-321-2931
E-mail:kyuunan-7@kaiho.mlit.go.jp



平成19年7月 プレジャーボート等 海難発生隻数

合計	18隻
衝突	8
乗揚	2
転覆	0
浸水	0
推進器障害	0
舵障害	0
機関故障	6
火災	0
爆発	0
行方不明	0
運航阻害	2
安全阻害	0
その他	0

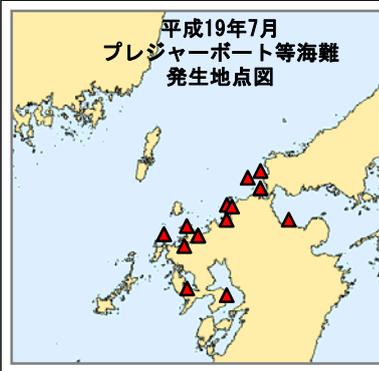
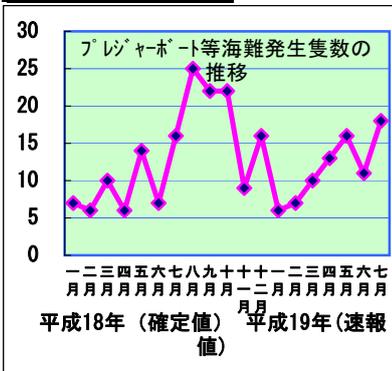
水上オートバイ取り扱いに注意しよう!

7月22日1120頃、長崎県西彼杵郡時津港の地先砂浜で、エンジンを起動していない水上オートバイ(立乗り型)に5歳の男の子が座った状態で乗り、父親が後ろから押して遊んでいました。その後、エンジンを起動して父親が同乗して操船することとし、水上オートバイの横に立ちエンジンを起動させました。男の子は、それまで水上オートバイの横に手を置いていましたが、いつのまにかスロットルレバーを握る形となったため、水上オートバイがほぼフルスロットル状態で急発進し、男の子を乗せた水上オートバイは、父親を置き去りにして、約10mを暴走し前方の岸壁に正面衝突しました。男の子は全身強打し、いまだに入院



～事故からの教訓と対策～

水上オートバイのエンジンを止めるには、ひとつはエンジンストップボタンを押す方法。もう一つはロックプレートを外す(引き抜く)方法です。ロックプレートはカールコードの端をバンドでライダーの手首に止めておけば、転倒したり落水したした場合、ロックプレートが抜けて自動的にエンジンが停止できるようになっています。もしものため必ずエンジン始動する時は、カールコードのバンドは操船者の手首に装着しましょう。



小型船舶の機関取扱い～シリーズ

機関の故障や整備不良による海難が急増!

Q1 2月にエンジンオイルを換えたが、また換えるよう勧められた!?

◆約時速50kmで運転したときのエンジン回転数の違い



一般的なボート	一般的な自動車
●船体重量: 約1.8トン	●車両重量: 約1.5トン
●最大出力: 225ps/5,500rpm	●最大出力: 203ps/6,000rpm
●スピード54km/h(30kt): 5,000rpm	●スピード50km/h: 1,200rpm
	●スピード100km/h: 2,000rpm

追記: 上記データは、同一排気量(3,000cc)のエンジンで比較したものです。

4ストロークエンジン内のオイルは、エンジンを使用しなくても劣化します(空気中の水分の混入、酸化など)。また、船外機やマリンエンジンを100時間運転した場合の負荷率は、自動車が10000km走行した場合に相当します。



オイルは運転100時間又は使用6ヵ月で交換しましょう。

海の相談室だより (七管本部海洋情報部)

高潮(たかしお)に注意! ~夏場の潮位は高い~

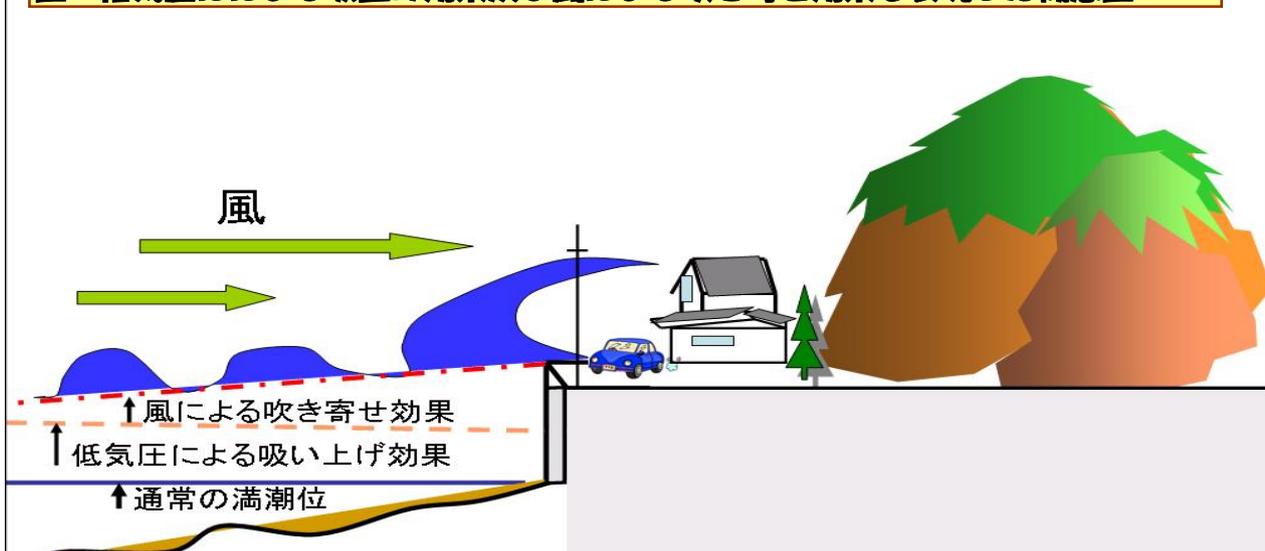
8月2日、台風5号は猛烈な風雨とともに九州に上陸しました。当日は中潮でしたが、深夜の満潮の時に通過しました。8月から10月は年間で最も潮位(海面の高さ)が高くなりません。九州北部海域では、夏季には水温が上昇し、さらに冬場に比べて気圧も低くなるため、月別最高潮位は冬季と比べて36~53cm潮位が高くなります。

また、台風や低気圧が接近するとさらに潮位が上昇しますので、この時期の新月・満月前後の満潮時には高潮にも注意が必要です。

七管区では、門司、佐世保、厳原、大分、博多の験潮所で常時潮汐観測を実施し、この潮位情報をインターネットで提供しています。下記のアドレスで、全国の潮汐情報をリアルタイムでご覧になれます。

http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TIDE/real_time_tide/htm/kck_main.htm

図 低気圧による吸上げ効果及び風による吹き寄せ効果を表した概念図



ライフジャケット着用者の生存率は約8割!

もしも、海中転落してしまったらまず海に浮いていることが重要です。救命胴衣を着用せず、服を着たまま海で浮いた状態を保ち、呼吸し続けることは容易ではなく、海で浮かんでいられない以上、待ってるのは「死」のみです。助かるためには、まず「**浮く**」ことです。



熱放出低減姿勢



水中に転落した場合、大きく深呼吸して落ち着きましょう。水中で運動すればするほど体熱が奪われエネルギーのロスになります。可能な限りじっとして保温に努め、熱放出低減姿勢をとりましょう。